



「失敗のすすめ」

2022年1月



中学教頭 慎 繁範

「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけてることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」するとシモンは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と言った。イエスは言われた。「ペトロ、言うておくが、あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう。」

(ルカによる福音書22章31～34節)

新しい年を迎えました。この1年をどのように過ごそうか、思いを巡らせている人も多いことでしょう。今年はどうぞん失敗しようと考えている人はあまりいないかもしれませんが、成功体験よりも失敗体験の方が人間の成長のためには必要であって、失敗も神様の計画であることを、お伝えしたいと思います。

『失敗学』という学問があり、畑村洋太郎氏（東京大学名誉教授）が先駆者として知られています。畑村氏によると失敗には、未知への遭遇による『良い失敗』と、怠慢による『悪い失敗』の2種類があるといえます。良い失敗は新しいチャレンジをしている証拠です。また、人は良い失敗をして実際に痛い目にあうことで、なぜ失敗したのか考え始めます。このプロセスを経ることで、次の不要な失敗を防ぎ、物事の本質に到達して、自ら課題を設定できるような創造力が身につくということです。しかし、失敗には負のイメージがつきまといまいます。できれば、成功したいと誰もが願うわけですが、人は一度成功すると、次も同じ手段をとって成功しようとします。これでは、同じような課題にしか通用しないことになり、真の創造力は身につきません。昔から『失敗は成功のもと』といいますが、それ以上の効果がよい失敗にはあるのです。

聖書の中は失敗の話であふれています。特に有名なのはイエスの筆頭弟子であったペトロの裏切りです。ペトロはイエスが捕らえられる前には、「私は決してあなたを裏切ることはない」と言っていたのに、イエスが捕らえられると怖くなり、自分はイエスなど知らないと言ってしまうのです。

イエスはペトロが自分を裏切ることを知っていました。前掲の聖書箇所は、裏切る前のペトロに語ったイエスの言葉です。「しかし、わたしはあなたのために信仰がなくならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら兄弟たちを力づけてやりなさい」ペトロが失敗しないようにという祈りではなく、失敗した後に立ち直ることができるための祈りでした。イエスは自分を裏切るペトロに対して、責めるどころか、愛を示しておられたのです。

この失敗を通して、ペトロは自分の弱さを嫌というほど実感したことでしょう。また、それと同時に同じ弱さを抱えている周りの人たちを本当の意味で理解することができたのです。そして、それらをすべて包み込む神様の大きな愛に気づくことができました。この失敗があったからこそ、立ち直ったペトロは、多くの人に神様の愛を伝えるはたらきができたのです。

神様は私たちが弱く失敗しやすい者であることをご存知です。何でも自分の力で完璧に行い、決して失敗しないことなど望んでおられません。むしろ、失敗を通して自分のありのままの姿を知り、自分には神様が必要であることに気づき、神様とともに歩むことを願っておられます。そして、どのような失敗をしても、決して見捨てず、あなたが大切だと言ってくれるお方なのです。

